

SharpShooter Reports.WinRT (XAML)

基本的な使い方

Last modified on: June 10, 2014

目次

はじめに.....	3
システムの必要条件.....	3
I. Visual Studio でのプロジェクト作成.....	3
II. サーバー側のプロパティ設定.....	4
レポートサービスの作成.....	6
サンプルのデータソースの作成/追加.....	7
レポートサービスの設定 レポートテンプレートの作成.....	10
III クライアント アプリケーションの設定.....	14
コンポーネントの追加.....	14
許可の設定.....	16
アプリケーションの実行.....	18

はじめに

このユーザーガイドは、SharpShooter Reports.WinRT を使ったシンプルなレポートの作成/表示方法について説明し、コンポーネントを使えるようになるための基本情報を提供します。サーバー側のプロジェクトとクライアント側の Windows ストア アプリケーションの作成手順を説明していきます。サービスの作成と設定を行い、最後にアプリケーションのページにレポートビューアコンポーネントを組み込む方法を説明します。

システムの必要条件

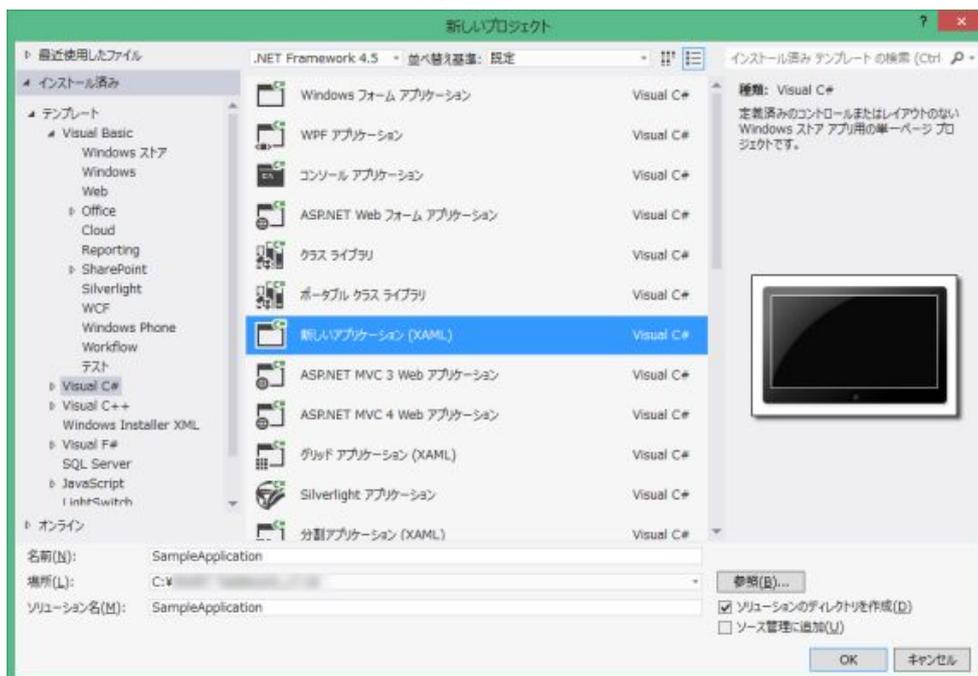
プロジェクトの開発前に、以下がインストールされていることを前提としています。

- Microsoft Visual Studio 2012 またはそれ以上
- サーバー側のプロジェクトには .NET Framework 3.5 またはそれ以上
クライアント側のプロジェクトには .NET 4.5 またはそれ以上
- ASP.NET 2.0 またはそれ以上
- SharpShooter Reports.WinRT 6.5 またはそれ以上
- Microsoft Windows 8

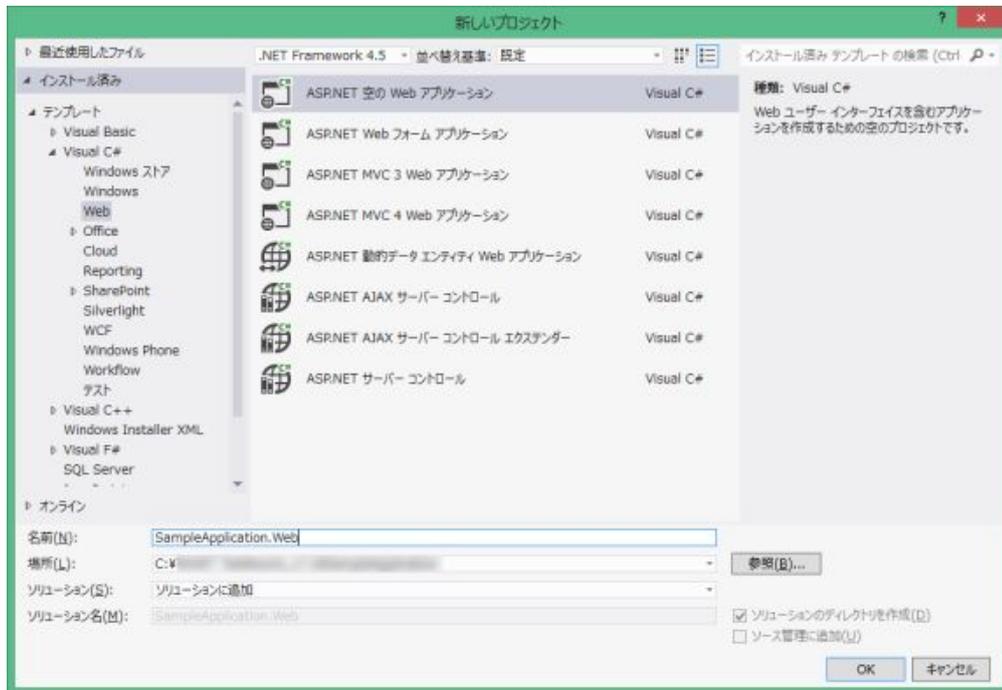
I. Visual Studio でのプロジェクト作成

1. Visual Studio で新規の Windows ストア プロジェクトを作成するには、[ファイル] タブで [新規作成] -> [プロジェクト] を選択し、表示されたウィンドウの左側ツリーの「Windows ストア」を選択し、「新しいアプリケーション (XAML)」をクリックして新規のプロジェクトテンプレートを作成します。

「名前」ボックスに、「SampleApplication」というプロジェクト名を設定し、「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

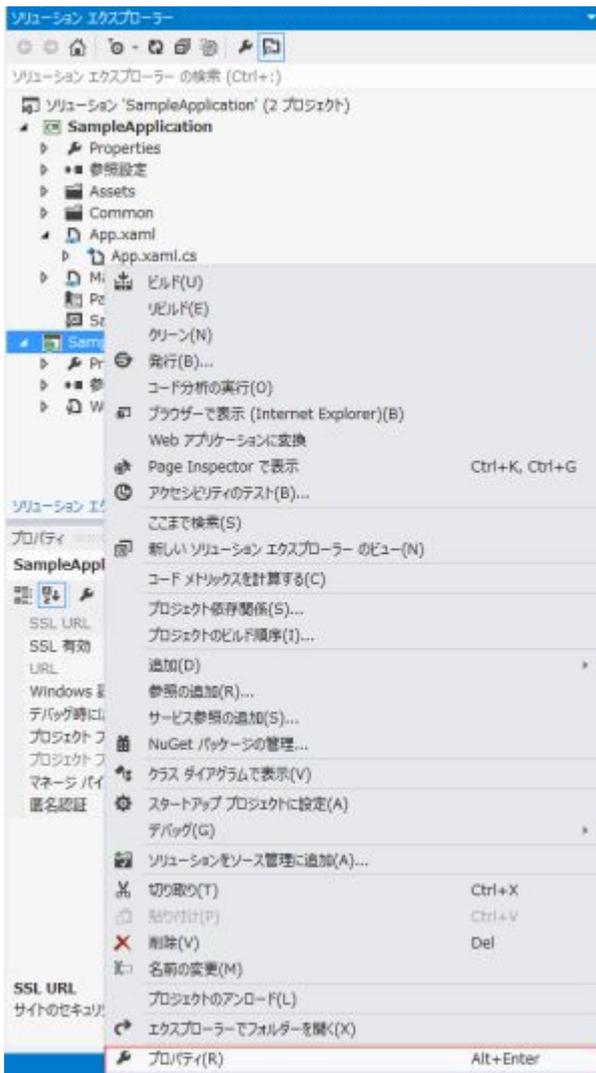


- 次に、ソリューションにサーバー側のプロジェクトを追加する必要があります。これを行うには、[ファイル] メニューの [追加] -> [新規プロジェクト] を選択します。表示されたウィンドウの左側ツリーから「Web」を選択し、「ASP.NET 空の Web アプリケーション」を選択します。プロジェクト名を「SampleApplication.Web」に設定し、「OK」ボタンを押してウィンドウを閉じます。

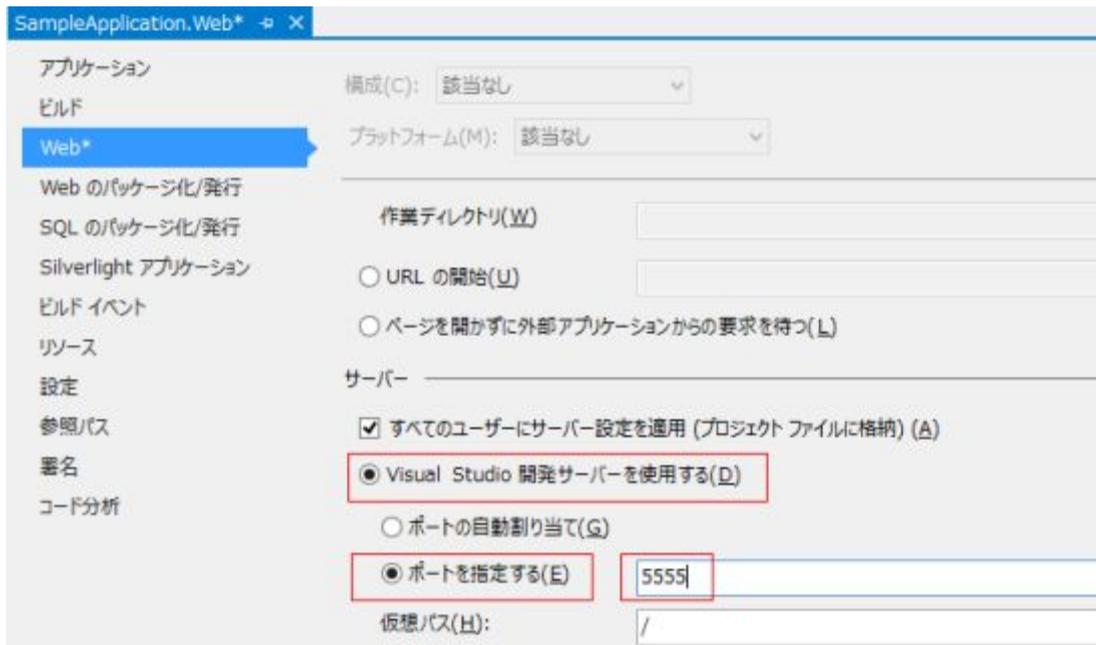


II.サーバー側のプロパティ設定

サーバー側のプロジェクトのプロパティ設定を開くには、ソリューションエクスプローラの「SampleApplication.Web」プロジェクトを右クリックし、コンテキストメニューから「プロパティ」を選択します。

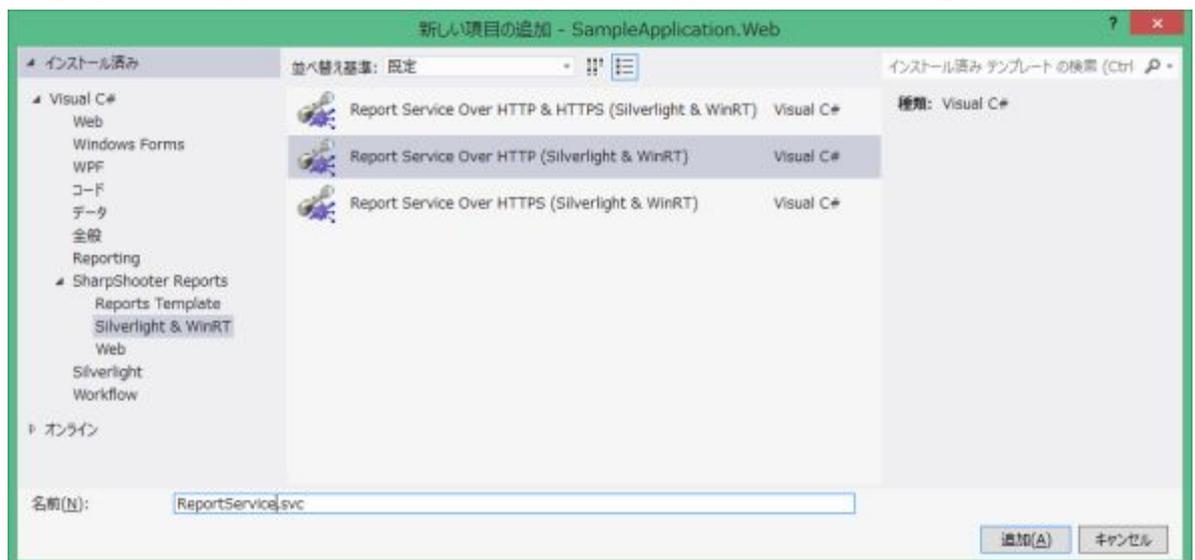


表示されたウィンドウの「Web」タブを選択し、[Visual Studio 開発サーバーを使用する] と [ポートを指定する] にチェックが付いているか確認し、[ポートを指定する] の値として「5555」を入力します。ファイルメニューの [選択された項目を保存する] をクリックしてプロジェクトのプロパティを保存し、「プロパティ」ウィンドウを閉じます。

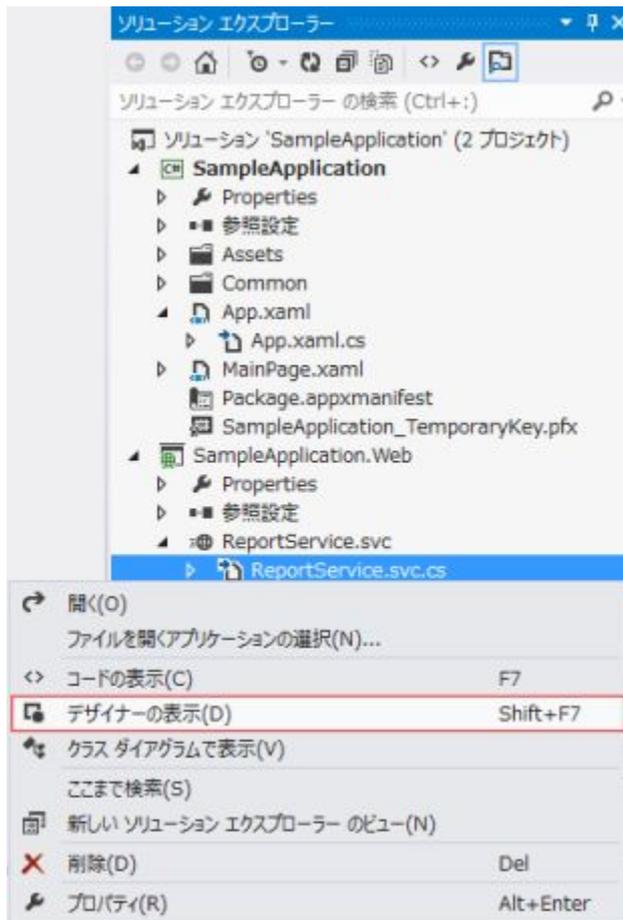


レポートサービスの作成

1. レポートサービスをサーバー側のコンポーネントとして追加します。
ソリューション エクスプローラの「SampleApplication.Web」を選択し、[プロジェクト] メニューの [追加] -> [新しい項目] をクリックします。表示されたウィンドウの左側のツリーから [SharpShooter Reports] -> [Silverlight & WinRT] を選択し、[Report Service Over HTTP (Silverlight & WinRT)] を選択します。コンポーネント名を「ReportService.svc」に設定し、「追加」ボタンを押してコンポーネントをサーバー側のプロジェクトに追加します。



2. ソリューション エクスプローラの「ReportService.svc.cs」ファイルを右クリックしてコンテキストメニューを開き、「デザイナーの表示」を押してデザイン表示に切り替えます。

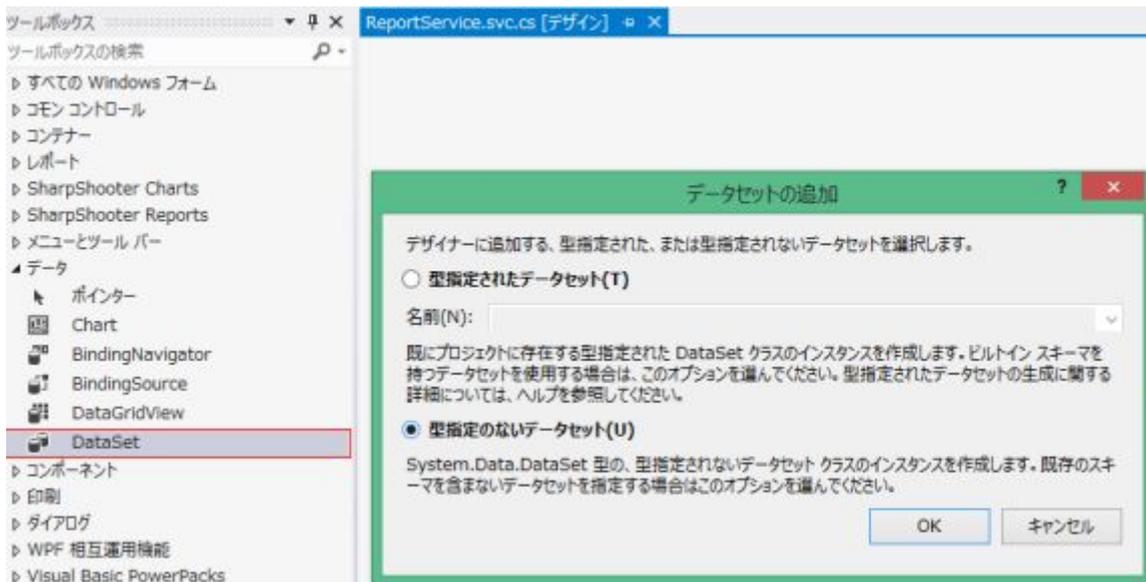


サンプルのデータソースの作成/追加

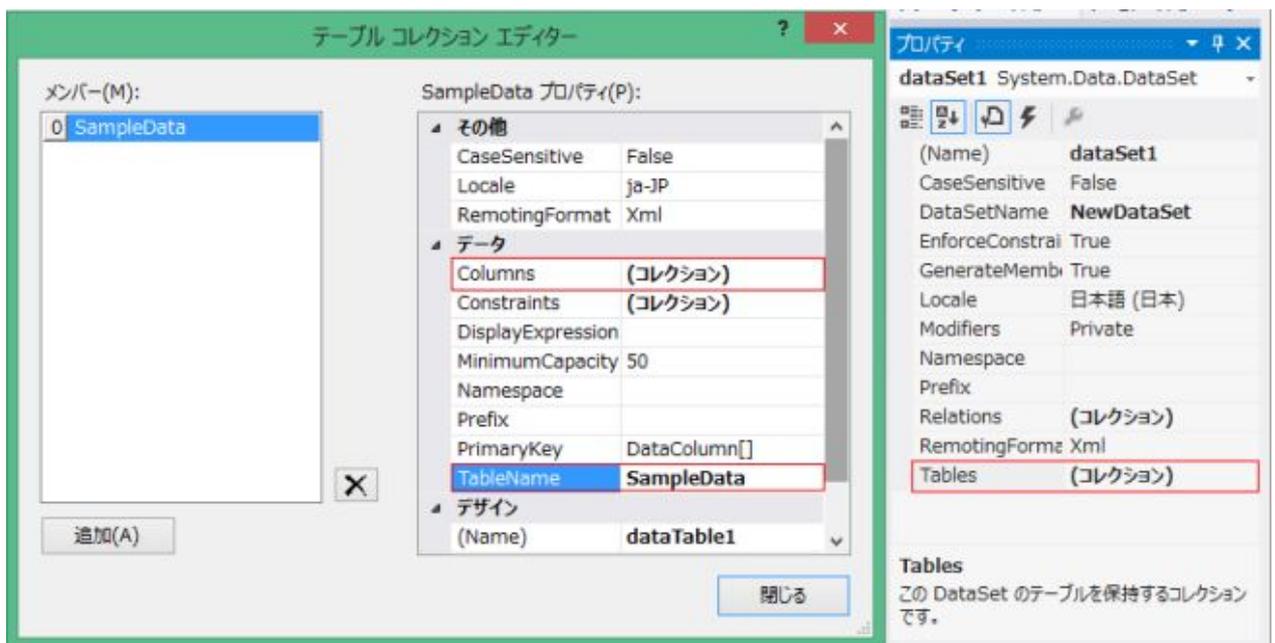
レポートにデータを表示する必要があります。ここではコードで記述した、型指定のないデータソースを使用しますが、実際のレポートでは **.Net Framework** でサポートされている任意のデータソースをお使いいただけます。

データ構造を設定するために、ツールボックスの「データ」タブから「DataSet」を選択し、ダブルクリックして追加します。

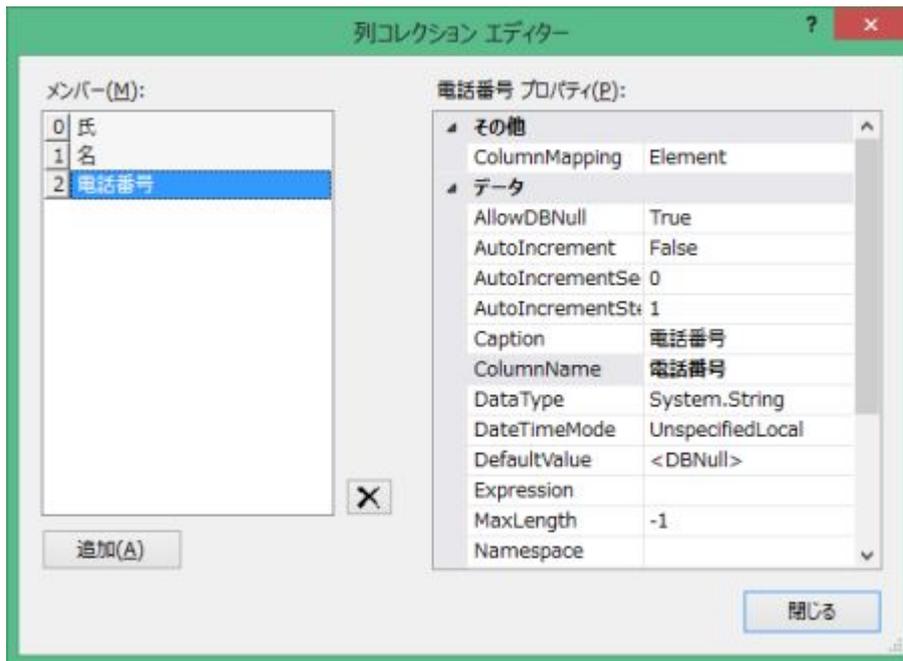
「データセットの追加」ウィンドウの「型指定のないデータセット」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



追加した「dataSet1」を選択し、プロパティグリッドの「Tables」プロパティのボタンをクリックしてテーブルコレクションエディタを開きます。「追加」ボタンをクリックしてテーブルを追加し、*TableName* プロパティを「SampleData」に設定します。



Columns プロパティのボタンをクリックして列コレクションエディタを開きます。「追加」ボタンをクリックしてテーブルに列を3つ追加し、*ColumnName* プロパティをそれぞれ「氏」、「名」、「電話番号」にします。各列の *DataType* プロパティが「System.String」に設定されていることを確認してください。



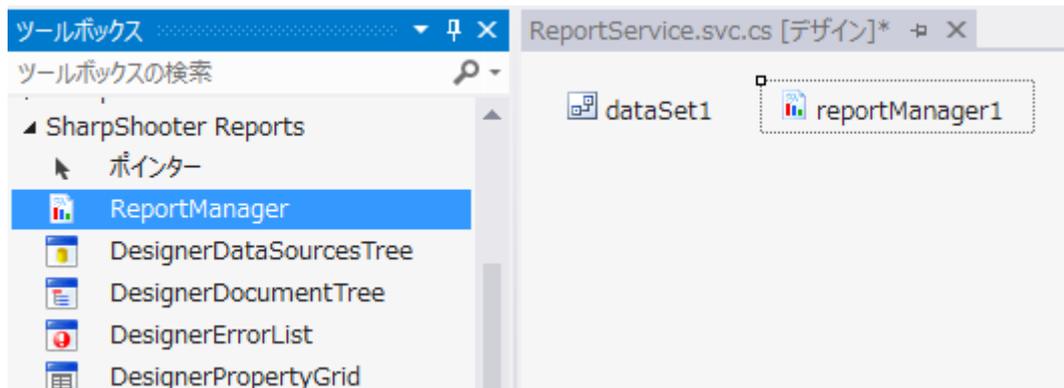
レポートにデータを表示するには、データソースを追加する必要があります。これを行うには、ReportService.svc.cs ファイルをコード表示で開き、サービスクラスの OnLoadData メソッドを次のようにオーバーライドしてください。

```
protected override void OnLoadData(
    System.Collections.Generic.IDictionary<string, object> parameters,
    string reportName, PerpetuumSoft.Reporting.Components.ReportSlot reportSlot)
{
    base.OnLoadData(parameters, reportName, reportSlot);
    dataTable1.Rows.Clear();
    dataTable1.Rows.Add(new object[] { "正門", "恵子", "(0482)24-19XX" });
    dataTable1.Rows.Add(new object[] { "森上", "偉久馬", "(0425)25-05XX" });
    dataTable1.Rows.Add(new object[] { "田中", "和明", "(0425)37-00XX" });
    dataTable1.Rows.Add(new object[] { "葛城", "孝史", "(03)3714-75XX" });
    dataTable1.Rows.Add(new object[] { "秋山", "秀樹", "(03)3705-36XX" });
}
```

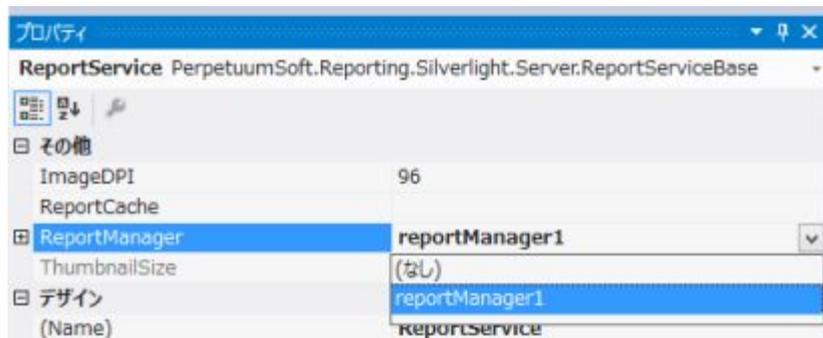
レポートサービスの設定 レポートテンプレートの作成

アプリケーションでレポートを作成/使用するには、アプリケーションに **ReportManager** コンポーネントを追加する必要があります。**ReportManager** は、レポートテンプレートを格納するために使用され、さまざまなレポート編集/生成機能があります。

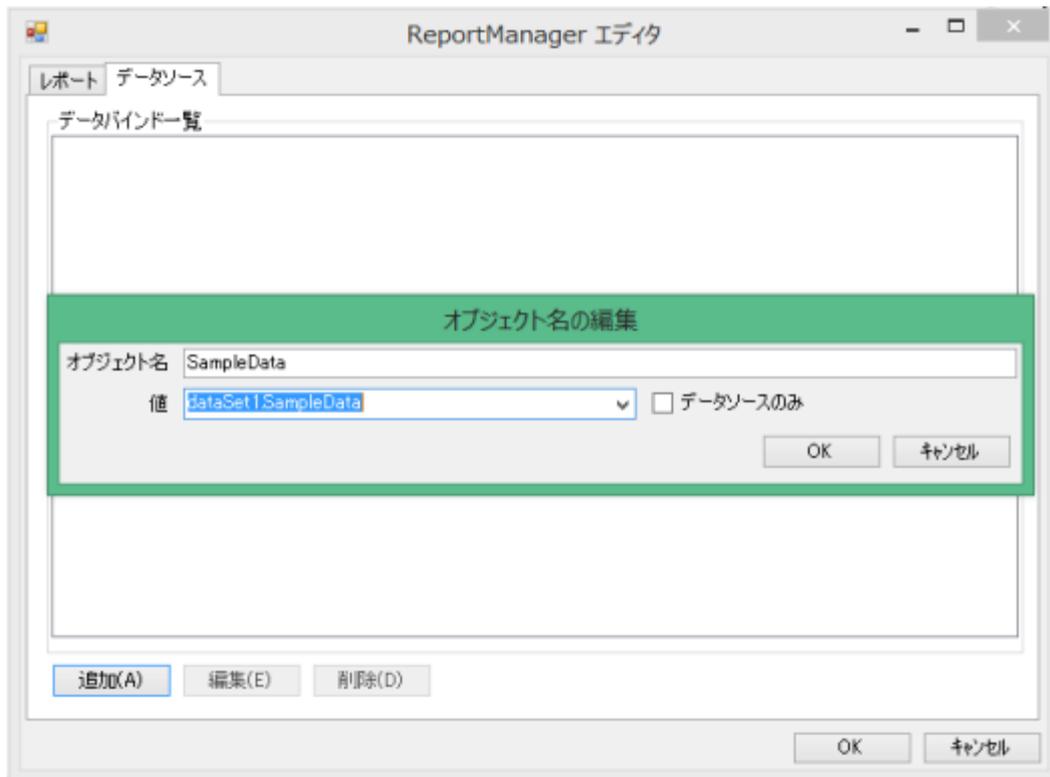
1. **ReportManager** コンポーネントを貼りつけるには、**ReportService.svc.cs** ファイルをデザイン表示に切り替えて、ツールボックスの **ReportManager** をダブルクリックして追加します。



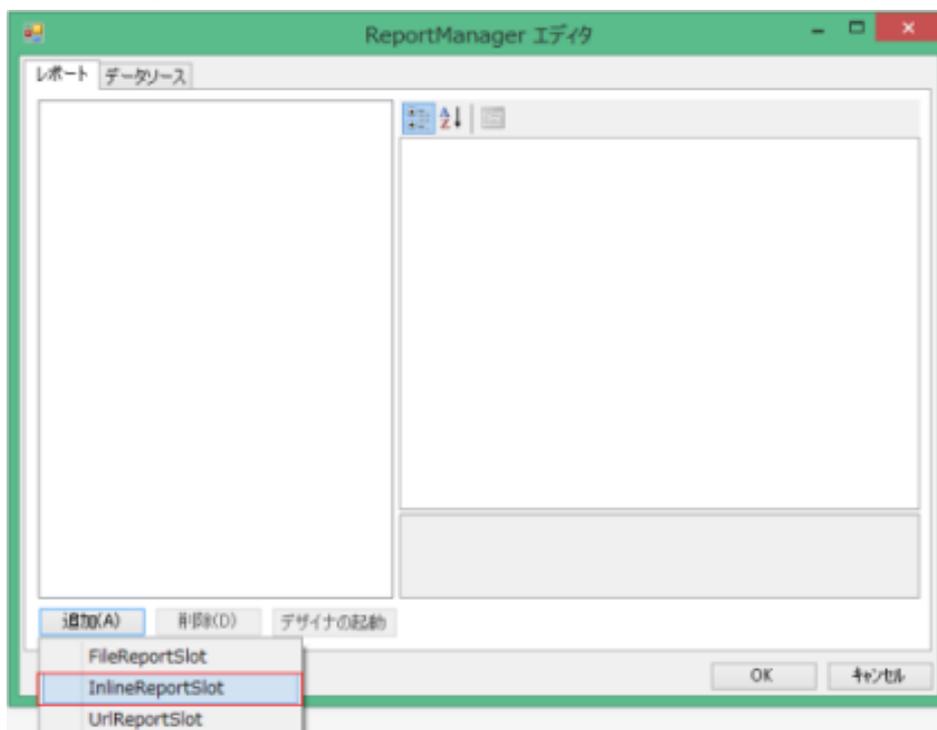
2. プロパティ ウィンドウの「**ReportService**」プロパティのドロップダウンリストから「**reportManager1**」を選択します。



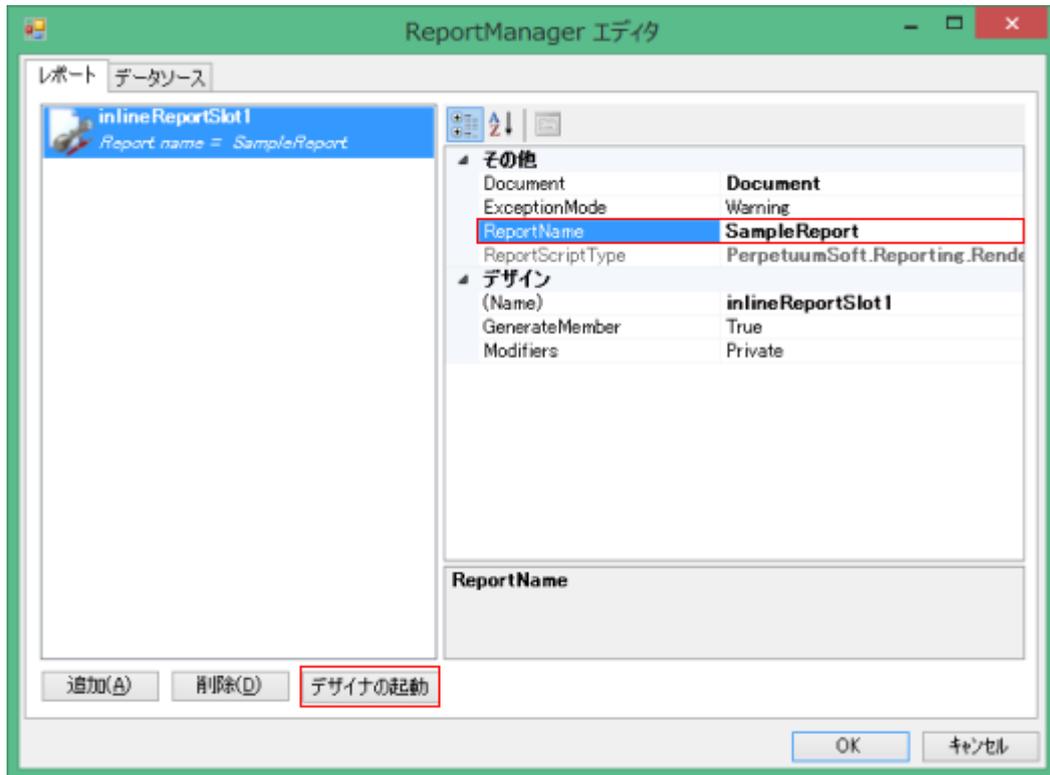
3. 追加した **ReportManager** コンポーネントをダブルクリックしてエディタを開き、「データソース」タブに行き、「追加」ボタンを押します。データソース名を「**SampleData**」に設定し、データソースの値として「**dataSet1.SampleData**」を選択し、「**OK**」ボタンをクリックします。



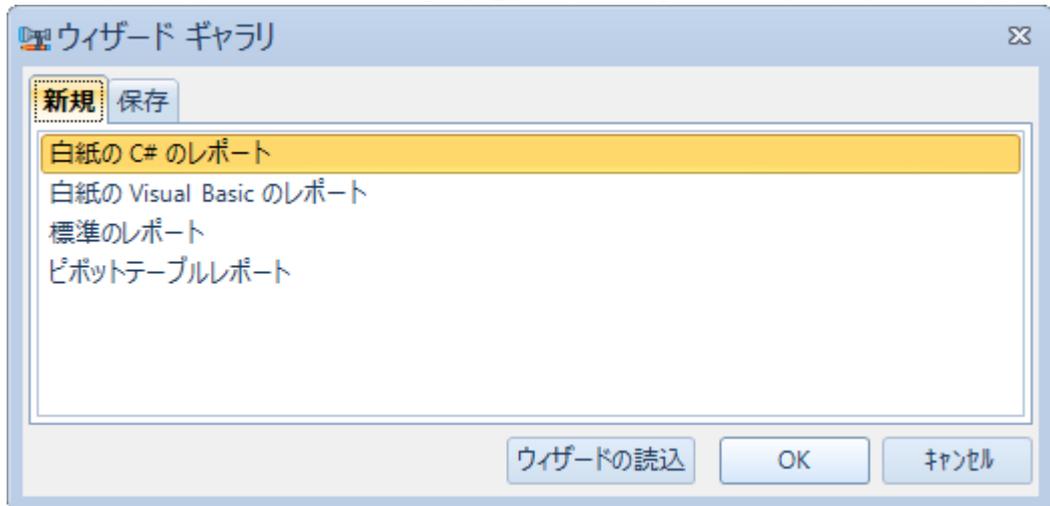
- 次に、「レポート」タブに行き、「追加」ボタンをクリックし、「InlineReportSlot」を選択します（InlineReportSlot はアプリケーションコードでシリアル化されたテンプレートを提供します）。



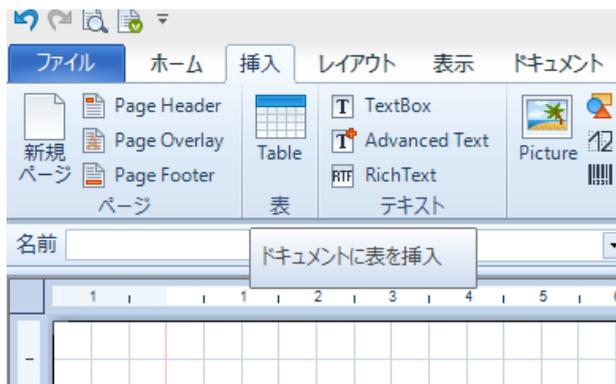
- 追加したスロットに **SampleReport** という名前を設定し、「デザイナの起動」をクリックしてレポートデザイナを開きます。



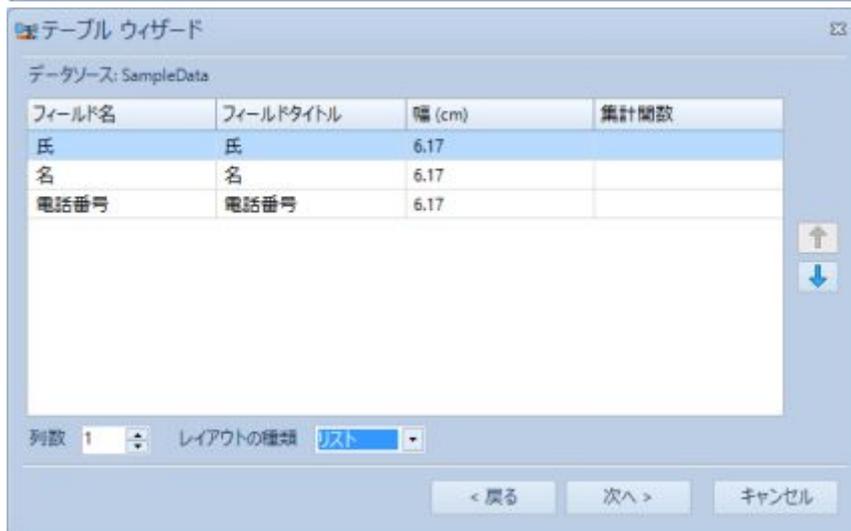
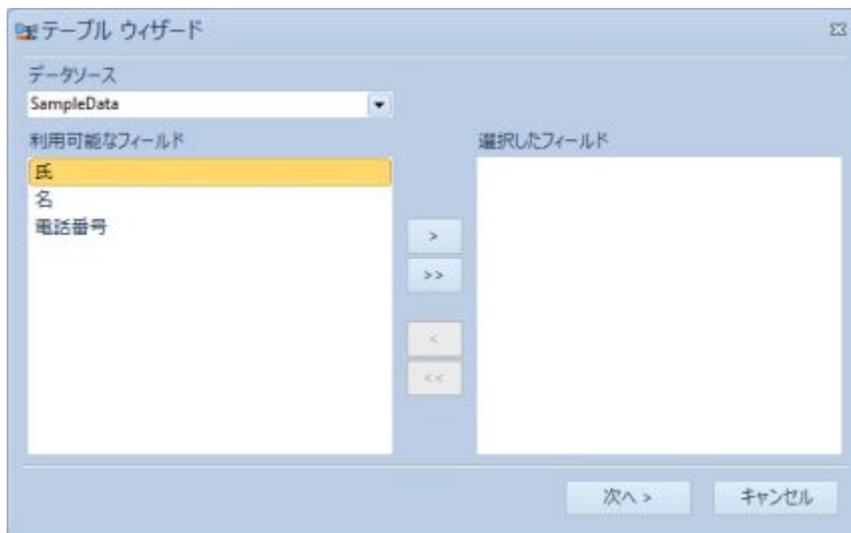
- 新しい白紙のテンプレートを作成するには、[ファイル]->[新規]を選択し、ウィザードギャラリーから「白紙の C# のレポート」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

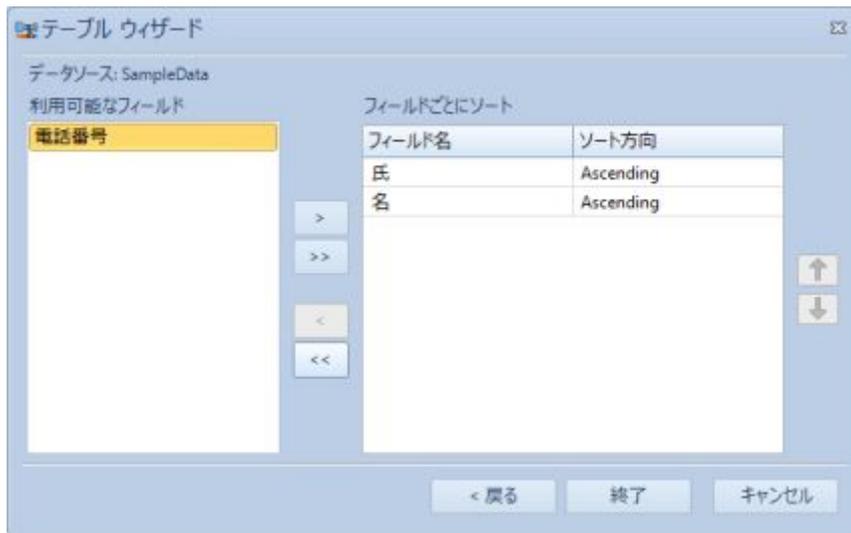


- テーブルウィザードを使用してテーブルを簡単に作成できます。それには、[挿入] タブの「Table」ボタンをクリックします。

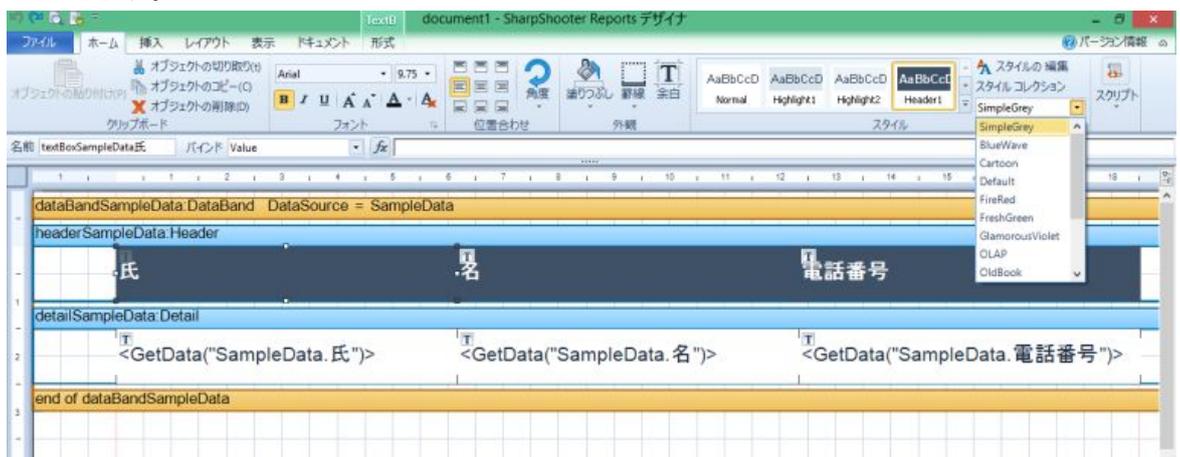


8. 手順3で作成した「SampleData」をデータソースに選択し、リストから利用可能なすべてのフィールドを追加します。「次へ」を押して[レイアウトの種類]で「リスト」を選択し、「氏」と「名」をソートするフィールドとして選択します。





9. [ホーム] タブの [スタイルコレクション] から「SimpleGrey」を選択してレポートの見栄えを整えます。

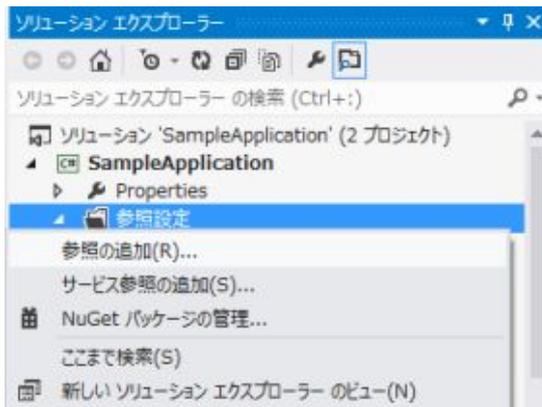


10. (CTRL + S を押すか、[ファイル]->[保存] を使用して) 変更を保存してデザイナを閉じ、ReportManager の「OK」ボタンを押します。これでサーバー側の設定は終わりです。

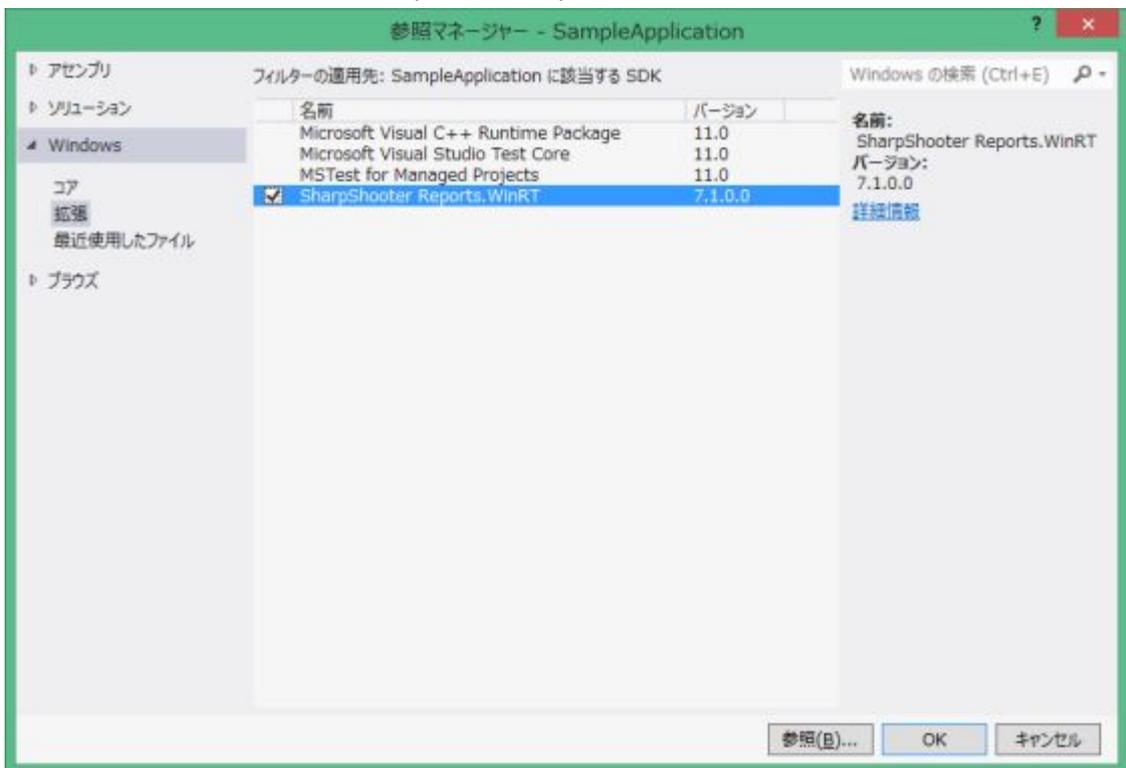
III クライアント アプリケーションの設定

コンポーネントの追加

1. ソリューションエクスプローラのクライアントアプリケーションの [参照設定] を右クリックして、コンテキストメニューから [参照の追加] を選択します。



- 「Windows\拡張」タブから SharpShooter Reports.WinRT を選択します。



- MainPage.xaml に、下記コード（黄色の部分）を追加します。

```
<Page
  x:Class="SampleApplication.MainPage"
  xmlns="http://schemas.microsoft.com/winfx/2006/xaml/presentation"
  xmlns:x="http://schemas.microsoft.com/winfx/2006/xaml"
  xmlns:local="using:SampleApplication"
  xmlns:d="http://schemas.microsoft.com/expression/blend/2008"
  xmlns:mc="http://schemas.openxmlformats.org/markup-compatibility/2006"
  xmlns:reporting="using:PerpetuumSoft.Reporting.WinRT.Client"
  mc:Ignorable="d">

  <Grid Background="{StaticResource ApplicationPageBackgroundThemeBrush}">
    <reporting:ReportViewer x:Name="reportViewer"
      ServiceUrl="http://localhost:5555/ReportService.svc"
    />
  </Grid>
</Page>
```

```

ReportName="SampleReport" />
</Grid>
</Page>

```

4. MainPage.xaml.cs を開き、次のコード（黄色の部分）を追加します。

```

public sealed partial class MainPage : Page
{
    public MainPage()
    {
        this.InitializeComponent();
        Loaded += MainPage_Loaded;
    }

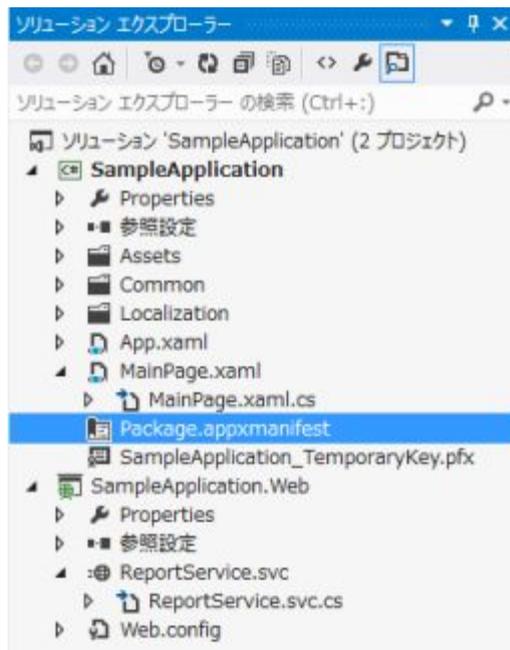
    private void MainPage_Loaded(object sender, RoutedEventArgs e)
    {
        reportViewer.RenderReport();
    }
}

```

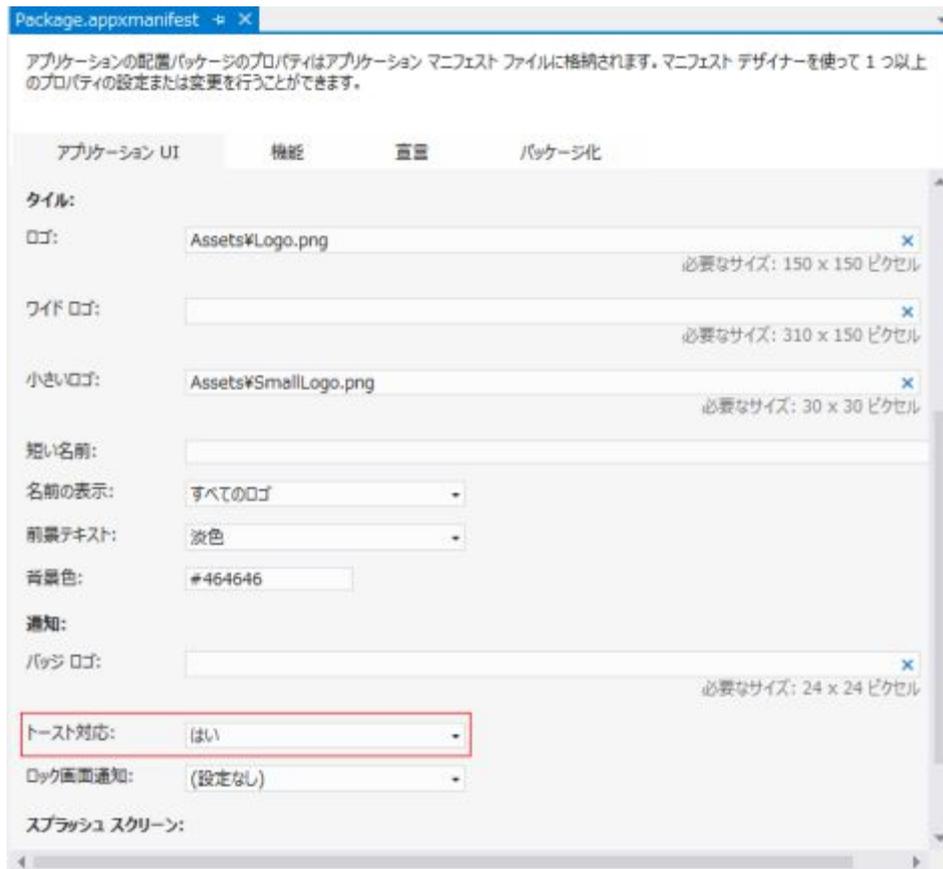
許可の設定

アプリケーションを実行する前に、許可を設定する必要があります。

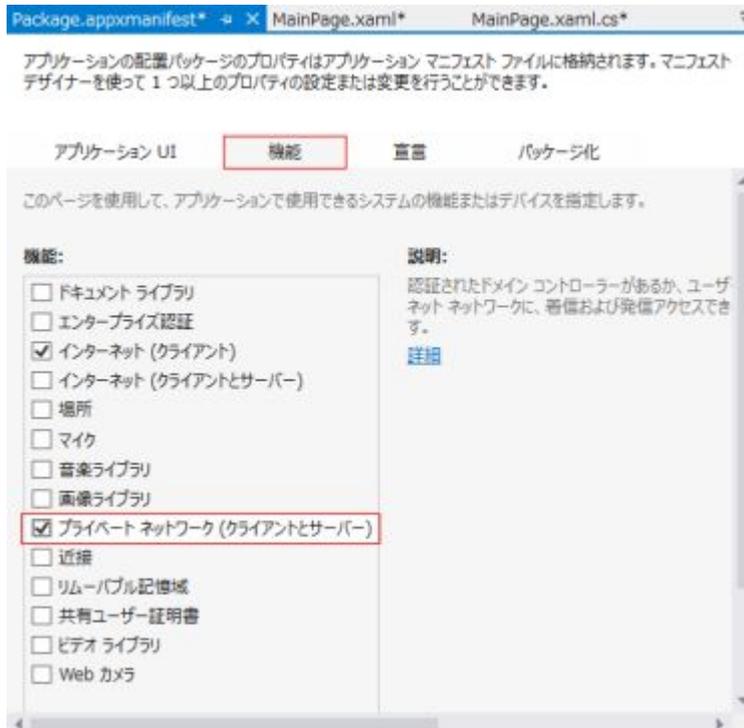
「Package.appxmanifest」をダブルクリックしてマニフェスト デザイナを開きます。



このコンポーネントは、トースト通知を使用してエクスポートの処理情報を提供します（トースト通知とは、画面に表示されるポップアップ通知メッセージです）。トースト通知を有効にするには、「アプリケーション UI」タブを押し、[トースト対応] を「はい」に設定します。上述のタブが表示されない場合は、[ビジュアル資産] タブの [すべてのイメージ資産] が選択されているか確認してください。

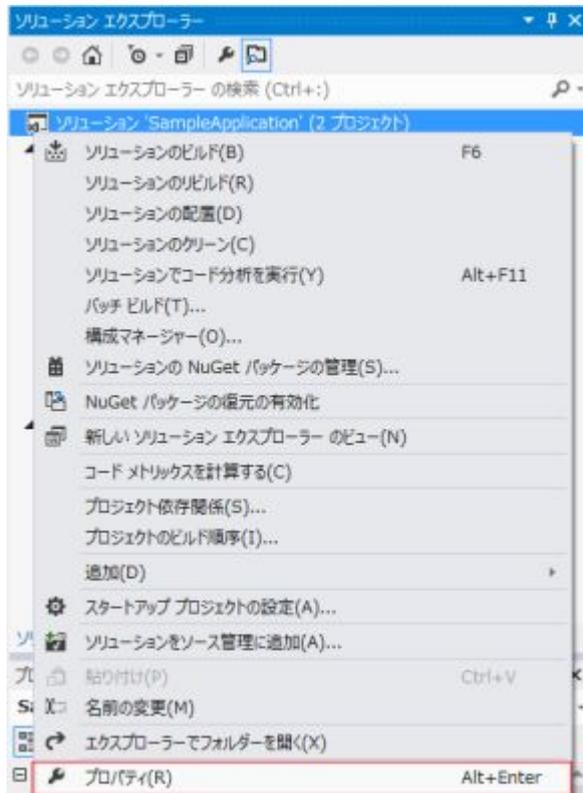


アプリケーションのアクセスを有効にするには、プライベート ネットワークは [機能] タブの [プライベート ネットワーク] にチェックを入れます。

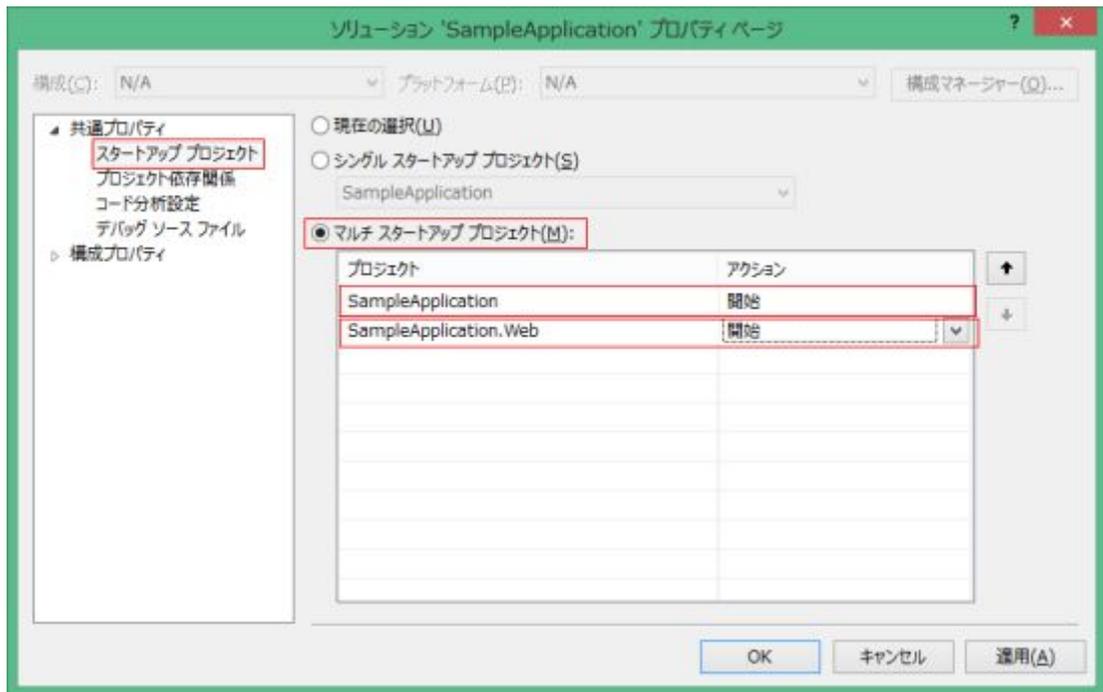


アプリケーションの実行

サンプルの用意ができて両方のプロジェクトが同時に動くよう設定されているか確認してください。これを行うには、ソリューション エクスプローラの「SampleApplication」ソリューション コンテナを右クリックし、表示されたコンテキストメニューから [プロパティ] タブを選択してください。



ソリューションの SampleApplication プロパティ ウィンドウの左側のツリーから [スタートアップ プロジェクト] を選択し、[マルチ スタートアップ プロジェクト] にチェックを付けて、両方のプロジェクトの [アクション] パラメータを「開始」に選択します。「OK」ボタンをクリックして変更を適用し、ウィンドウを閉じます。



F5 ボタンを押してプロジェクトを実行します。正しく行っていれば、アプリケーションが実行され、生成されたレポートにはプロジェクトの作成時に入力したデータが表示されます。

